

## 加工事業本部

低収益からの脱却に向けて、  
事業本部と各社のシナジーを  
高めるとともに、  
新たな食のカテゴリー創出に  
取り組みます。



代表取締役専務執行役員  
加工事業本部長

井川伸久

### 2020年3月期の振り返り

加工事業本部は、ブランド戦略、利益重視の販売戦略、商品構成や生産性の改善などに加え、原料価格が想定内で推移したことにより、売上高3,538億円\*、事業利益114億円\*の増収増益となりました。

加工事業本部では、低収益からの脱却に向けて、①現場起点のマーケティングで商品開発力強化、②現状の仕組みを根本的に見直すことでコスト構造を変革、③明るくチャレンジ精神をもって自責でやりきることの3つを取り組みました。

「現場起点のマーケティングで商品開発力強化」については、お客様の購買層拡大を目的にブランドエクステンションとして主力「シャウエッセン®」においてホットチリやチーズなど新しいテイストの商品を発売したことに加え、チルドピザにおいても、高価格帯のアイテムを拡充しました。また販促方法についても、全国一律のTVCMから若年層の購買層獲得のため、WEB動画にシフトするなどチャレンジしました。

「現状の仕組みを根本的に見直すことでコスト構造を変革」については、組織改革に加え、原料購買方法の見直しや工場部門における稼働の見直し、製造方法の変更等、今までにない取り組みを実施してきました。

「明るくチャレンジ精神をもって自責でやりきること」については、チャレンジする風土の醸成として、若手新商品提案会や商品アイデア募集会などの仕組みづくりも行いました。

※ 遡及前数値、旧加工事業本部単体数値

### 持続的な成長に向けて

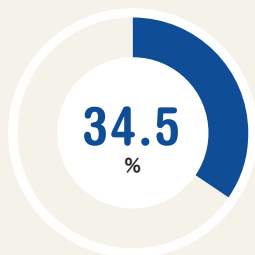
#### 加工事業本部と各社のシナジーを高める

加工事業本部に、2020年4月より寿司種や水産加工品を扱うマリンフーズ(株)、チーズ・缶詰・冷凍食品・フリーズドライを扱う(株)宝幸、ヨーグルト・乳酸菌製品を扱う日本ルナ(株)、食肉加工品・畜産エキスを扱う日本ピュアフード(株)が加わりました。

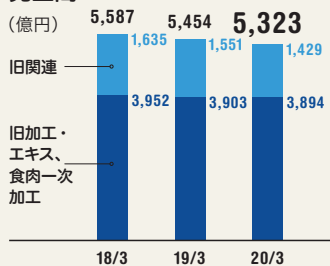
前期におきましては、マリンフーズ(株)、(株)宝幸、日本ルナ(株)が所属していた関連企業本部は、水産事業の厳しい販売環境などで売上高1,429億円と減収でした。また、利益面においては乳製品事業の新工場稼働によるコスト競争力の向上や水産事業の利益率の改善などで事業利益は11億円と増益となりました。各企業、収益力を伴う事業拡大や新たな価値創造に向けた商品開発などに取り組んだ結果ですが、収益性という面では課題は多くあります。

この4社と加工事業本部のそれぞれの強みを掛け合わせ、シナジー効果を発現するために、営業、製造、購買、開発、物流、管理それぞれの機能においてプロジェクトチームを立ち上げました。各機能で最大限の効果を出すことで、お客様に提案する商品の幅を拡大し、お客様にご満足いただける機会を増やしていきたいと考えています。

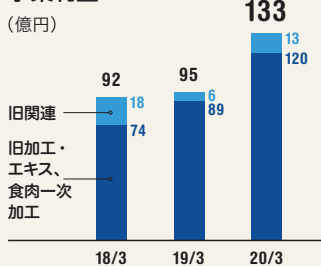
売上高構成比



売上高



事業利益



2021年3月期より旧関連企業本部・エキス、食肉一次加工が加工に統合されたことにより、2018年3月期以降の数値を遡及修正しています。

マーケット視点で  
新たなカテゴリーを創造する

加工事業本部のミッションはニッポンハムグループの企業理念、経営理念に沿い、時代の要請に応え、時代を画する文化を創造することで「食べる喜び」をお客様にお届けすることだと考えています。そのためにお客様視点に立った「ものづくり」と「サービスの提供」が必要不可欠であるため、2020年度は日本ハム独自のマーケティングプロセスを再構築し、消費者の声を商品開発に活かす仕組みづくりや、流通データの解析を進化させ、次世代につながるヒットブランドや新たなカテゴリーの開発を強化していきます。

～「食べる喜び」をお客様へ～

ニッポンハムグループにとってたんぱく質は事業の根幹であり、創業者の「動物性たんぱく質の供給で国民の健康と体位の向上を図る」という想いの根元でもあります。

加工事業本部は、これまでのハム・ソーセージや加工食品に、このたびチーズ、ヨーグルト、水産品のたんぱく質が加わったことで、たんぱく質を供給する企業として新たな価値を提供し、社会貢献できる可能性も広がったと思います。

私たちは安全・安心な食の安定供給に対する責任を果たすとともに、事業本部および各社のシナジーを高め、マーケット視点の商品開発を強化することで、新たな「食べる喜び」をお客様にお届けしていきます。

